

大阪・関西万博 きょうと基本構想 (案)

令和5年●月●日
大阪・関西万博きょうと推進委員会

はじめに

1970年の「大阪万博」は、「人類の進歩と調和」をテーマに、77カ国の参加のもと、6,400万人が来場し、その幕を閉じた。

それから50年の間、我が国は、関西国際空港、山陽新幹線、明石海峡大橋等のインフラ整備や、インターネット等の情報通信技術の発展等により、人と人との時間的・心理的距離は大幅に縮まり、生活は劇的に便利になった。

一方で、高度経済成長が終わりを告げ、度重なる経済的危機に直面し、自然災害の頻発、新型コロナウイルス感染症拡大による健康への不安の高まり、少子高齢化・人口減少や、それに伴う地域コミュニティの希薄化、働き手不足も深刻化している。

世界に目を向ければ、東西冷戦の終結や、BRICs等新興国の台頭など、国際情勢は大きく変容し、人口の急激な増加は、食料問題や環境問題を一層深刻化させた。また、グローバル化の進展は、国と国との距離を縮めたが、戦争や感染症の拡大等による影響が、すぐさま世界中に波及するようになった。こうした課題に直面する中、持続可能でよりよい社会の実現を目指す世界共通の目標としてSDGs（持続可能な開発目標）が設定され、国際的な協力の輪が広まってきている。

このように時代が目まぐるしく変化する中、2025年に「いのち輝く未来社会のデザイン」というテーマで、再び関西において万博が開催される。

「大阪・関西万博」は、地域経済を活性化する起爆剤であり、また豊かな文化発信のチャンスである。この機会に、日本の博覧会発祥の地であり、SDGs先進地でもある京都はどのように向き合い、何を未来に残していくべきなのか、この「大阪・関西万博きょうと基本構想」にまとめた。

本構想のもと、京都の持つ力を総結集し、京都の未来、そして世界の未来を切り拓いていく。

- 1. 万博を通じて京都が目指すもの** ……p.4
- 2. 全体テーマ** ……p.5
- 3. 府域内の取組の方向性と考え方** ……p.6~p.7
- 4. 万博会場に対する基本的な考え方** ……p.8
- 5. 万博会場等における催事の考え方** ……p.9~p.10
- 6. 全体スケジュール** ……p.11

1. 万博を通じて京都が目指すもの

<京都が培ってきたまちの姿>

京都は、平安時代より、人や自然など様々な「いのち」を大事にし、共生する中で、奥深い文化を育んできた。また、そうした中で、伝統を守りつつ「遊び心」を取り入れながら革新を重ね、新たなものを常に創り出してきた。

現代においても、個性や特色のあるまちや山紫水明の豊かな自然を有するとともに、千年を超えて受け継がれてきた文化が生活の至る所に根付いており、この豊かな自然や文化を基盤として、食、産業、教育、観光などが、他に類を見ない発展を遂げてきている。

また、これに魅せられ、学生をはじめ国内外から多様な人々が集い、若い力に溢れ、人や地域、企業、大学、行政などの距離感が近い。

<万博を通じて京都が目指すもの>

このような京都が持つ強みや特徴は、万博全体のテーマ「いのち輝く未来社会のデザイン」やコンセプト「未来社会の実験場」との親和性が非常に高い。

このため、大阪・関西万博を通じて、京都は、「**環境**」と調和しながら府内各地で育んできた奥深い「**文化**」、伝統から最先端まで多様な業種があり、質の高い技術や研究開発を有する「**産業**」、府内各地に様々な資源を有する「**観光**」などの魅力を世界へアピールし、人や投資を呼び込むことで、**京都府全域のさらなる活性化**につなげる。

また、万博を契機として、様々な人、企業、文化の「**新たなつながり**」を創り、「**伝統**」と「**革新**」を融合させながら、**未来の京都を担う人や企業、文化**をつくっていく。

一緒につくろう、京都の未来 ～伝統と革新で拓く～

Come Together, Create the Future

～ Leading with Tradition and Innovation ～

～ テーマに込めた想い ～

先人たちが作り上げ、受け継いできた京都のまちを、現代を生きる我々も未来へと繋いでいかなければならない。

そのため、京都が培ってきた強みや特徴を生かし、国内外からの万博の来場者に府内各地に来ていただくことで、京都府民との「つながり」や「共感」を創り、一体となって、京都の未来、そして世界の未来を切り拓いていく。

3. 取組の方向性と考え方

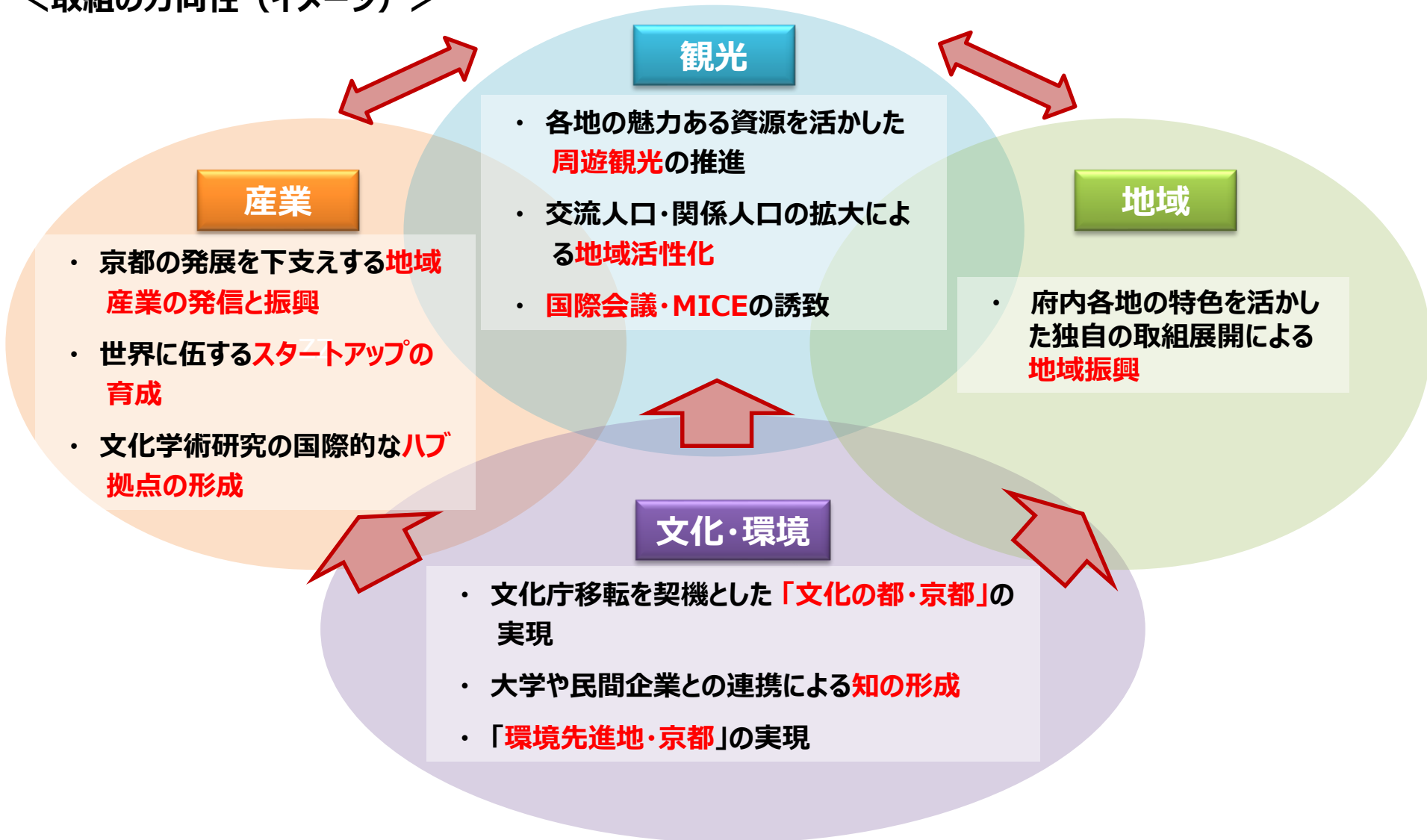
- 古来より人や自然など様々な「いのち」との調和を図ってきた「**文化・環境**」、文化を土台にして発展してきた「**産業**」と「**観光**」、そして「**地域**」の4分野が密接に連携・融合した取組を実施。
- 府内各地に人や投資を呼び込むことで、京都府全域の活性化に繋がるとともに、人と人、企業と企業、文化と文化などの「新たなつながり」を創り、未来の京都を担う人や企業、文化を育てていく。

<取組の考え方>

- 「**文化・環境**」分野においては、西陣織、京友禅などの伝統産業、茶の湯や華道、食文化など、多様かつ奥深い文化を育み、自然との調和を図ってきた京都ならではの取組を進める。
- 「**産業**」分野においては、伝統産業から先端産業まで様々な産業が集積する京都の強み、そして日本の産業発展を支えてきた京都のものづくり産業の底力を生かした取組を進める。
- 「**観光**」分野においては、京都が培ってきた「文化・環境」や「産業」を生かし、京都府各地に人を呼び込み、交流と連携を生み出す取組を進める。
- 「**地域**」分野においては、府内全域で地域の特色を活かした独自の取組を積極的に展開し、地域経済の活性化、参加諸外国との交流など、**地域振興**をはかる。
- なお、これらの取組は便宜的に分類しているものであり、実際は各分野が密接に連携しながら、取組を進めていくことになる。

3. 取組の方向性と考え方

<取組の方向性（イメージ）>



☆ オール京都体制にて、万博期間前・期間中の取組について、ポータルサイトの作成等による一元的な情報発信や、機運醸成・誘客促進のためのイベントを実施。

4. 万博会場に対する基本的な考え方

万博会場の位置付け

万博会場において、京都の文化や京都産業の強み、観光資源等をアピールし、京都府域内の各地へ人を呼び込む「**ゲートウェイ**」として位置付け。

京都ブースの展示のあり方

- **未来の京都を担う若い世代を中心に、府民や府内企業等の活力や想像力を最大限活用するとともに、「人」や「人のつながり」を未来に残すため、推進委員会の若手部会（仮称）が中心となり企画。公募等を含め幅広く出展・運営方法を検討**
- 本構想の「『万博を通じて京都が目指すもの』や『全体テーマ』と軌を一にし、「文化・環境」、「産業」、「観光」、「地域」の**4つをテーマとして、一定期間での入替**も視野に入れた企画などを想定



5. 万博会場等における催事の考え方

1. 京都が出展可能な催事場について

① 関西パビリオン内の催事スペース

⇒ 関西広域連合により、パビリオン出展 9 府県に割り当ての予定

② その他、会場内の催事場

⇒ 令和 5 年度内に自治体枠（1 団体1枠予定）の先行募集開始（一般参加枠は令和 5 年夏頃）



博覧会協会提供のスケジュール

2023年2月末	自治体向け説明会
2023年3月末	意向ヒアリング
2023年6月	企画案（概要）提出締切
2023年8月	仮内定
2023年10月	企画書提出締切
2024年1月	実施決定
2025年会期中	大阪・関西万博で実施

2. 催事に対するオール京都での対応方針

① 関西パビリオン内の催事スペース

⇒ **未来の京都を担う若い世代を中心に、府民や府内企業等の活力や想像力を最大限活用**するとともに、「人」や「人のつながり」を**未来に残す**ため、推進委員会の**若手部会（仮称）が中心**となり企画。**公募等を含め幅広く**出展・運営方法を検討

② その他、会場内の催事場

⇒ 催事場の規模、博覧会協会が発表予定のテーマウィークの内容、出展枠確保の手法等を踏まえ、幅広く出展・運営方法を検討

(参考) その他、会場内の催事場



6. 全体スケジュール

※令和5年度以降の内容は、あくまでも予定

